

GINGA REPORT 401

No. 88
2022.9

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和4年9月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

9月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

秋の北極星の探し方

カシオペア座は、秋のころ北の空高く、5個の明るい星がW字形、またはM字形に並んでいるように見える星座です。日本では『錨星』や『山形星』と呼ばれ、古くから注目され、親しまれてきました。

そんなカシオペア座は、北極星を探す目印にもなります。北極星は動かず北の方角を教えてくれる大切な星です。北斗七星を使って探す方法が有名ですが、秋には空低く下がってしまいます。そこで、北斗七星の反対から昇ってくるカシオペア座を使ってみましょう。

右の星図を見てイメージしてください。カシオペアをMの字にみたく両サイドの山すそから、それぞれ山の頂点に向かって真っすぐ進みます。そのまま伸ばし続け、交わった点からMの中央に向かってさらに真っすぐ進むと、北極星を見つけることができます。

他の季節ではできない、その時期ならではの探し方で、星を見つけてみるのもおすすめです。



9月15日21時の星図

椅子に座ったカシオペア

カシオペアとは古代エチオピアの王妃のことで、星座絵では優雅に椅子に座った姿が描かれています。

彼女にはアンドロメダという美しい一人娘がいました。ある日「海の精の姉妹がいくら美しくても、私の娘には敵わない。」と自慢してしまいます。この発言が海の神の怒りを買ったため、その日をさかいに海岸には恐ろしいお化けくじらが出没し、子どもたちをさらってしまうようになりました。

その後、海の神の怒りをなだめるためには、娘のアンドロメダを生贄にするしかないことが分かり、アンドロメダは海岸で大岩につながれてしまいました。ところが、お化けくじらの餌食になるあと一歩のところまで、ペガサスに乗った勇者ペルセウスがとんできて、アンドロメダの命を救ったのです。

そして、神の怒りを持ったカシオペアは、椅子にしばられたまま夜空に放り上げられたと言われています。優雅な星座絵の裏側にこんな話があったとは、見方が大きく変わりそうです。

今月の天文トピック

『中秋の名月をみよう』9月10日(土) 20:00-21:30 博物館前市民公園

月のクレーター

9月10日は中秋の名月です。実際に目でみてみるのはもちろん綺麗ですが、天体望遠鏡を使って月をより深く観察してみるのも面白いかもしれません。

月を拡大して見てみると、月の表面にはデコボコしているもの、クレーターを見ることができます。クレーターは火山活動によって作られたのか、それとも隕石などの衝突によってできたものなのか、月探査が行われる以前は意見が二つに分かれていました。今でも成因がよく分からないものもありますが、クレーターの大半が隕石などの衝突によって作られたことが、月の探査で明らかになっています。衝突によってできたクレーターは、様々な形をしており、何度望遠鏡で見ても飽きないものです。

クレーターは、イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイが発見しました。自作の望遠鏡で月の表面を見た際、デコボコとした形がお椀のように見えたことから、ギリシャ語でボウルとかコップという意味のクレーターと名付けたと言われています。中秋の名月、秋の夜空を眺め、いろんな視点から月に思いを馳せてみるのもいいですね。

©国立天文台



博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

日時：9月24日(土) 19:30~21:00
場所：博物館前市民公園
内容：木星・土星を見よう



※当日受付・参加無料です。
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

編集後記

今年の秋分の日は9月23日。秋分は昼と夜の長さが等しくなる日です。

昼の日差しが強い時間も短くなるため、少しづつ過ごしやすいい日も増えてきます。また、梅雨から夏にかけての湿気を含んだ空気よりも今の時期の方が空気も澄んでいるため、星や月が見やすくなりますよ。木星や土星も見えるかもしれません。天体望遠鏡を使って観察したいものです。

9月の月

- 4日  上弦
- 10日  満月
- 18日  下弦
- 26日  新月